

## 令和6年度 病虫害発生予察 特殊報 第1号

病虫害名： トマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick)

対 象： ー\*

(\*誘殺された成虫が確認されたが、現時点では農作物の被害は確認されていない)

### 1 病虫害情報の内容

トマトキバガの誘殺を、東京都多摩地域において初めて確認した。

### 2 誘殺経過

- 令和6年9月30日に、東京都病虫害防除所が都内多摩地域に設置したトマトキバガの侵入調査用フェロモントラップにおいて、疑義成虫3頭の誘殺が確認された(図1)。農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、いずれも都内では未発生のトマトキバガと判明した。現在のところ、都内では本種による農作物の被害は確認されていない。
- 本種は南米原産であり、海外ではヨーロッパ、アフリカ、中央アメリカ、中東、アジアに分布を拡大している。国内では令和3年に熊本県で初めて確認され、これまでに43道府県で誘殺あるいは農作物への被害が確認されている。

### 3 形態

成虫は翅を閉じた状態で体長5～7mm(前翅長約5mm、開張約10mm)。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在し、後翅は一樣に淡黒褐色である(図2)。

終齢幼虫は体長約8mm、体色は淡緑色～淡赤色で、頭部は淡褐色である。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある(図3)。

### 4 生態

1年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。地域によって差はあるが、年に10～12世代発生する地域もある。卵～成虫になるまでの期間は24～38日程度であり、気温が低い時期はさらに延びる。成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。

### 5 被害

トマトでは茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害するため、食害部分は表面のみを残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる(図4)。果実では、幼虫がせん孔侵入して食害するため、果実表面に数mm程度のせん孔痕が生じるとともに食害部分が腐敗する。

寄主植物はトマト、ナス、ピーマン、パレイショ等のナス科植物のほか、マメ科のインゲンマメも寄主植物として報告されている。

## 6 防除対策

- (1) トマトまたはミニトマトでは、トマトキバガに登録のある薬剤を使用する。なお、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統（作用機構分類コード）が異なる薬剤でローテーション散布を行う。
- (2) 被害葉および被害果はほ場に放置せず、土中に深く埋めるか、ビニール袋等に入れて密封することで、寄生した成幼虫を死滅させたいうで、適切に処分する。

## 7 参考文献

- (1) 特殊報：神奈川県、千葉県、長野県など
- (2) 農林水産省横浜植物防疫所（2022）トマトキバガについて．植物防疫所病虫害情報 127：1-3



図1 フェロモントラップ誘殺個体



図2 トマトキバガ成虫

(原図：農林水産省植物防疫所)



図3 トマトキバガ終齢幼虫

(原図：農林水産省植物防疫所)



図4 トマト果実および葉の被害

(原図：農林水産省植物防疫所)